

令和 7 年 11月28日	病虫害発生予報 12月号	茨城県病虫害防除所
------------------	-----------------	-----------

今年の防除日誌を整理・確認して作業内容を振り返り、  
来年のよりよい防除につなげましょう！

## < 目 次 >

Ⅰ. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
イチゴ：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・	1
促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・	1
促成ピーマン：コナジラミ類・・・・・・・・・・・・・・・・	2
【その他の病虫害】	
イチゴ、促成ピーマン、共通害虫・・・・・・・・・・・・・・・・	2
【防除所レポート】	
令和7年産大豆子実の主要病虫害による被害状況について・・・・・・・・	3
○サツマイモ基腐病の防除対策（貯蔵期）・・・・・・・・	4
Ⅱ. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・	5
<p>最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの 「農薬登録情報提供システム」(<a href="https://pesticide.maff.go.jp/">https://pesticide.maff.go.jp/</a>) で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200 ホームページでは病虫害・フェロモントラップ・農薬関連情報がご覧いただけます。 <a href="https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/">https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/</a></p> <p>※病虫害の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病虫害の防除や 農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病虫害防除所等の指導機関にお問い合わせ ください。</p>	



# I. 今月の予報

## 【注意すべき病害虫】

### イチゴ

#### 1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生花率（本年値 0.3%、過去9年平均値 0.2%）、発生地点率（本年値 14%、過去9年平均値 8%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、花をよく観察し、発生の少ないうちに防除を徹底する。  
② 青色粘着トラップを 10a あたり 100～400 枚設置すると密度低減に有効である。  
③ 薬剤散布は、アザミウマ類の寄生部位である花にかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。  
④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

### 促成ピーマン

#### 1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生花率（本年値 91.5%、平年値 40.4%）は平年より高く、一花あたりの寄生虫数（本年値 5.7 頭、平年値 2.3 頭）は平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。  
② 青色粘着トラップを 10a あたり 100～400 枚設置すると密度低減に有効である。  
③ 薬剤散布は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。  
④ 天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

(促成ピーマン 続き)

## 2. コナジラミ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生葉率（本年値 13.8%、平年値 3.7%）は平年より高く、発生地点率（本年値 75%、平年値 50%）は平年並～やや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難となる他、果実にすす症状を生じるため発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤を用いてローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	11月下旬現在、平年並の発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：やや多い	11月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	アブラムシ類		
	ハダニ類		
共通害虫	シロイチモジヨトウ	発生量：やや多い～多い	11月下旬現在、直近1か月間のフェロモントラップへの誘殺数は、つくば市で平年よりやや多い～多い。促成ピーマン、冬レタス、秋冬ネギ圃場で発生を認めている。
	オオタバコガ	発生量：やや多い	11月下旬現在、直近1か月間のフェロモントラップへの誘殺数は、龍ケ崎市で平年より多く、土浦市で平年よりやや多い～多く、筑西市で平年よりやや多い。イチゴ圃場で発生を認めている。
	ハスモンヨトウ	発生量：平年並	11月下旬現在、直近1か月間のフェロモントラップへの誘殺数は土浦市、筑西市および鉾田市で平年並、龍ケ崎市で平年よりやや少ない～少ない。

## 令和 7 年産大豆子実の主要病害虫による被害状況について

令和 7 年産大豆子実の主要病害虫による被害状況と防除対策をまとめました。次作に向けた対応の参考にしてください。

## [被害状況]

病害では、紫斑病、ウイルス病の被害粒率は平年よりやや高い～高く、べと病の被害粒率は平年よりやや低くなりました(表)。虫害では、吸実性カメムシ類、フタスジヒメハムシによる被害粒率は平年より高くなりました(表)。

表 令和7年産大豆子実の主要病害虫による被害状況

病害虫	被害粒率 (%)			発生地点率 (%)		
	本年	平年 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>	本年	平年 <sup>1)</sup>	順位 <sup>2)</sup>
紫斑病	2.5	1.7	2	90	61	2
べと病	2.3	3.0	9	100	68	1-2
ウイルス病	2.6	1.0	2	90	37	1
吸実性カメムシ類	7.2	2.9	1	100	82	1-3
フタスジヒメハムシ	1.8	0.4	1	80	52	1

1)過去 10 年間(平成 27～令和 6 年)の値の平均値。ただし、べと病は平成 29 年を除外した過去 10 年間(平成 26～令和 6 年)の値の平均値。

2)本年を含む過去 11 年間における本年値の順位。ただし、べと病は平成 29 年を除外した本年を含む過去 11 年間(本年および平成 26～令和 6 年)における本年値の順位。(1-2 は 1 位から 2 位まで同じ数字であることを示す)

[調査圃場] 県内 10 地点の大豆圃場(里のほほえみ 7 圃場、納豆小粒 3 圃場)

[調査方法] 1 圃場あたり 10 株の上位 20 莢程度(合計 200 莢程度)を採取し、子実の被害を目視で調査した。

[採取時期] 令和 7 年 10 月第 4、5 半旬、11 月第 1 半旬

## [防除対策]

## &lt;紫斑病&gt;

- ① 茎葉を含む被害残渣は適切に処分し、被害が多発した圃場では連作を避ける。
- ② 種子更新を行う。
- ③ 防除適期は開花期の 20 日後頃である。
- ④ 開花期から成熟期までに連続した降雨がある場合は、開花期の 30 日後に追加防除を行う。2 回目の防除を行う際は、1 回目の薬剤と FRAC コードの異なる薬剤を散布する。
- ⑤ 収穫が遅れると発生が多くなるので、適期に収穫する。

## &lt;べと病&gt;

- ① 茎葉を含む被害残渣は適切に処分し、被害が多発した圃場では連作を避ける。
- ② 種子更新を行う。
- ③ 密植を避け、風通しを良くする。
- ④ 防除適期は開花期～子実肥大期である。

## &lt;ウイルス病&gt;

- ① 種子更新を行う。
- ② 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなることから、媒介虫であるアブラムシ類を早期に防除する。
- ③ 発病株は早い時期に抜き取り、処分する。

## &lt;吸実性カメムシ類&gt;

- ① 薬剤防除は莢伸長期以降、発生に応じて 7～10 日ごとに複数回行う。
- ② 幼虫も子実を加害しながら成長するため、幼虫の発生状況にも注意する。

## &lt;フタスジヒメハムシ&gt;

- ① 収穫後に枯葉の処理と耕起を行い、翌年の発生を抑える。
- ② 薬剤防除は子実肥大期にカメムシ類と同時防除を行う。

## サツマイモ基腐病の防除対策（貯蔵期）

本年 11 月に県内でサツマイモ基腐病の発生が確認されました。本病の発生の拡大を防ぐためには、病原菌を「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」対策を総合的に取り組むことが重要です。

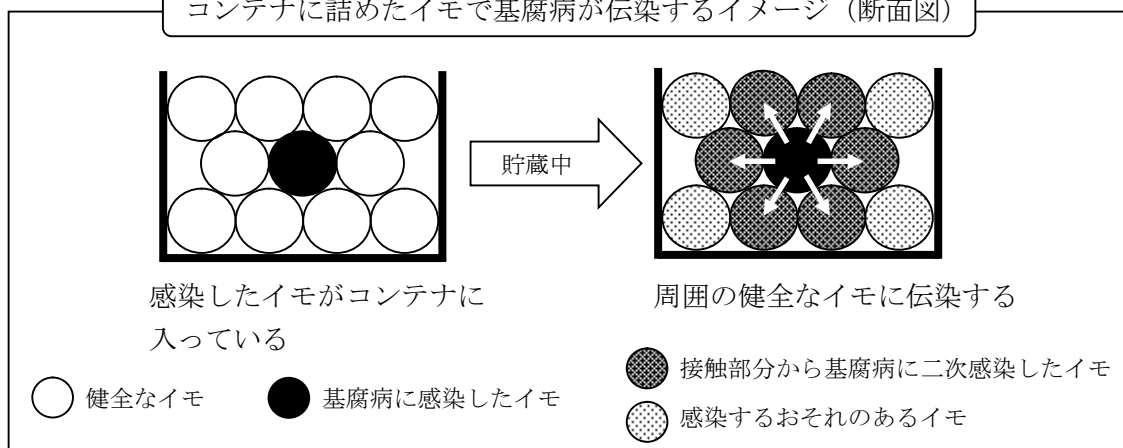
- ◎「持ち込まない」→ 健全な種イモ、苗の使用
- ◎「増やさない」→ 発病株の早期発見・防除
- ◎「残さない」→ 収穫後の残さ対策、貯蔵中の管理

### 【貯蔵中の対策】

- ・貯蔵中のイモは月に 1 回程度、異常がないか確認する。
- ・貯蔵中に疑わしい症状のイモを見つけた場合は、そのイモが入っているコンテナを隔離する。

※疑わしい症状を見つけた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センターまで連絡してください。

コンテナに詰めたイモで基腐病が伝染するイメージ（断面図）



※現在貯蔵中のイモに基腐病の発生がないか、あらためて確認してください。

### 茨城県総合防除計画におけるサツマイモ基腐病の遵守事項

茨城県では、全国的に発生しているサツマイモ基腐病について、すべての農業者（家庭菜園を含む）の皆様を守っていただくルール（遵守事項）を定めました（令和 5 年 4 月 1 日に施行された改正植物防疫法に基づくものです）。

#### ○遵守すべき事項

- ・県が実施するまん延防止のための調査に協力する。
- ・本病の発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、圃場（苗床を含む）外に持ち出す。
- ・本病発生圃場では、2 年間、サツマイモを作付けしない（関係機関の指導の下、栽培管理する場合を除く）。
- ・本病発生圃場から種イモを採取しない。
- ・本病発生圃場では、発生の拡大が無いことを確認する。

## Ⅱ．今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 11 月 29 日から 12 月 28 日)

気象庁 (11 月 27 日 発表)

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)＞

[確率]	要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	40	30	30
	降水量	関東甲信全域	70	20	10
	日照時間	関東甲信全域	10	20	70

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

＜1 週目の予報＞ 11 月 29 日 (土曜日) から 12 月 5 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに 40%

＜2 週目の予報＞ 12 月 6 日 (土曜日) から 12 月 12 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 50%

＜3 週目から 4 週目の予報＞ 12 月 13 日 (土曜日) から 12 月 26 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類（FRAC コード、IRAC コード）の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。